



中日病院 名古屋市中区丸の内3の12の3。☎052(961)2491

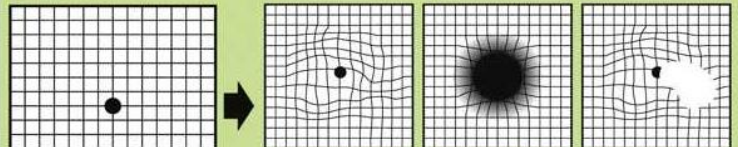
加齢黄斑変性という病気を、ご存じでしょうか？ 京都大の山中伸弥教授らが、二〇〇六年世界で初めて人工多能性幹細胞（iPS細胞）の作製に成功し、iPS細胞の医療応用に向けた多くの研究で、日本は世界をリードしています。一四年、眼科では、滲出型加齢黄斑変性の患者さんに、患者自身の皮膚から作製した網膜色素上皮細胞を眼内へ移植するという世界初の手術が行われ、話題になりました。

加齢黄斑変性は、欧米では高齢者の失明原因の上位で、日本でも視覚障害原因の第四位です。滲出型と萎縮型があり、萎縮型は症状の進行がゆっくりですが有効な治療法はありません。滲出型は、網膜で最も重要な黄斑部に、本来存在しない新しい血管（新生血管）ができて、出血などを起こし視力が低下します。治療は、新生血管を抑制する抗血管内皮増殖因子（VEGF）製剤の

加齢黄斑変性

自己チェックシートのイメージ

約30センチ離れて（眼鏡はかけたまま）、片目ずつマス目の中心を見てください。



線がぼやけたり、中心がゆがんだり、部分的に欠けたりして見えてませんか？

眼内注射が広く行われています。自覚症状は、ものがゆがむ変視症、視力低下、見ている中央部分が欠ける中心暗点などがありますが、両目で見ていると気がつかないこともあり、片目ずつ隠して行うセルフチェックがお勧めです。加齢黄斑変性以外の病気でも同様の症状が出る場合があります。まずは異常を認めたら眼科で診察を受けてください。

（眼科部長・小林加寿子）

視覚障害の原因の第4位